

ハマ街ビト

番外編

「真面目」「堅い」「几帳面」など……。士業について、このようなイメージを持っている方も多いかもしれません。たとえば LTR メンバーではどうでしょう？ 職業柄、そんなイメージに近い一面を持ちながら、「士業は近づきにくい感じでしたが、先生にお会いして（良い意味で）印象が変わりました」といった声を頂くことも！ そこで今回の「ハマ街ビト」は番外編として、“士業の素顔”をちょっと垣間見ることができるよう、特別コラムをお届けします。

LTR メンバーの中でも、ひと際こだわりの趣味を持つ藤森 純一氏。趣味が人生に大きな影響を及ぼし、仕事にもプラスに作用し、さらには夫婦の絆も深まったそう。果たしてどんな趣味なのか？ 写真とあわせてお楽しみください。

プラモデルが人生を変えた！

私は、あと数年で 50 歳を迎えます。そこで「仕事をしたなって人生はあっても、仕事しなかったという人生はどうなのだろう……」と考えている自分がいます。そして、「趣味」の時間も大切に、ということをより強く意識するようになってきました。

私の趣味は「プラモデル製作」です。特にキャラクターモデルという分野のプラモデルにはまっています。プラモデルは小学生のころよく作っていましたが、大人になると仕事に追われ、興味はあっても熱中するということはありませんでした。ところが、数年前、ひょんなことからプラモデルを手にして作り始めてからは、プラモデル作りへの情熱が再燃しています。

私が、プラモデル製作で好きなところは「塗装」です。塗装をほどこすことで、プラモデルに物語を持たせることができます。また、塗装にはさまざまな色の組み合わせ、表現手法が存在します。たとえば、黒で陰影をつけるのではなく、紫で影を表現する、あるいはレンジフィルターを使ってぼかした塗装をするなどいろいろな技法があります。まだ挑戦したことはありませんが、卵の殻を使った塗装技法もあるそうです。

日々進化するプラモデル作り

プラモデルには、作るということだけではなく、ツールを楽しむという魅力もあります。最近では、「水彩色鉛筆」を使った塗装も試しています。自宅での塗装では、あまり汚せない、シンナーなどの溶剤の臭いも気になる（わが家の場合、後でお話ししますが、妻の、



行政書士法人 横浜総合行政書士事務所
行政書士 藤森 純一氏

仕事場と同じ臭いでイヤといった、ちょっと変わった理由かもしれません）、道具の手入れが大変……といったことをできる限りなくすために、水彩色鉛筆のほか、アクリルガッシュといった絵具でも塗装をしています。

また、ジオラマの製作も手掛けています。ジオラマも、さまざまな素材を使って表現をしてゆきます。たとえば、落ちている枝や小石など使う素材を近所の多摩川を歩きながら探しています。そして、中古のカメラを購入して、撮影ブースで写真撮影するというのも少しずつ始めており、これらもまた、付随的に楽しめる要素と感じています。

「セカンドライフ」「ワークライフバランス」の提案も！

自分の世界に没頭するという以外に、プラモデルの塗装は、夫婦の会話で共通の話題としてあります。溶剤の成分であるとか、下地の色であるとか、塗装工程など、他人が聞いても、夫婦の会話とは思えないかもしれません。妻からのリクエストでプラモデルを塗装して作ると、そのプラモデルにダメ出し？もされます。

このようにプラモデルは、自分の時間と夫婦の時間も作ってくれています。仕事の話だと、夫婦間の意見が合わずに口論とまではいわずとも……ですが、プラモデルとなると、意見が違ってても尊重し合うということも。

プラモデル製作は私のリフレッシュ法でもあり、